

2026年（1月～6月） News Letter

1.委員会活動

- ① 国土・未来プロジェクト研究会
- ② 国土創生プロジェクト委員会
- ③ 広域地域経営委員会
- ④ 水循環委員会
- ⑤ 防災委員会
- ⑥ 海洋資源事業化委員会
- ⑦ 首都圏グローバルハブ空港研究会
- ⑧ 水素サプライチェーン整備委員会
- ⑨ 環境委員会（ブルーカーボン研究会）
- ⑩ 林業復活・地域創生を推進する国民会議
- ⑪ 森林再生事業化委員会
- ⑫ 複合観光事業研究会
- ⑬ 日本・ミャンマー産業交流検討委員会
- ⑭ 関西委員会
- ⑮ 中部委員会

2.オンライン講演会

- ① 第26回（2026.2）
- ② 第27回（2026.3）
- ③ 第28回（2026.6 予定）

3.大学連携講義

- ① 筑波大学
- ② 神戸大学

4.その他

- ① 新年賀詞交換会（2026.1）
- ② フューチャー21（若手勉強会）（2026.3）
- ③ SNS 開設

1.委員会活動

昨年に引き続き、シンポジウムの開催や、提言書作成・公表に向けた討議等、全ての委員会で積極的な活動を展開しました。

① 国土・未来プロジェクト研究会

中村最高顧問（JAPIC 名誉顧問 東京都市大学名誉総長）

藤本委員長（パシフィックコンサルタンツ 特別顧問）



中村最高顧問



藤本委員長

【国土作り 12 プロジェクト】

2025 年は、瀬戸内クルーズ（高松市）、下関北九州道路（北九州市）の 2 つのシンポジウムを開催しました。2026 年は、中川運河、京都市交通改善、瀬戸内クルーズ、下関北九州道路等の各プロジェクトにおいて、関係省庁や地元行政・経済界、地域との意見交換・協議等を重ねています。今後もプロジェクトの早期実現の機運醸成を図るべく、関係先と協議・連携し要望を重ねていきます。

【中川運河再生】

2026 年 3 月（一社）中川運河チャンネルアートが主催する「中川運河フォーラム 2026」（於名古屋市）に登壇し、当会提言を紹介するとともに、パネルディスカッションを通じて地域の皆様にも理解を深めてもらいました。

愛知県立中川青和高校とのワークショップは 4 年目を迎えます。昨年の取組みは、地元紙にも大きく取り扱われました。4 年目となる本年は「インフラツーリズム」をテーマにした取組みを予定しています。



中川運河フォーラム 2026

【中日新聞 2025 年 11 月 17 日】



【地域ブロック総合開発計画】

2025年3月、北海道・畿北・四国・沖縄の4ブロック提言を纏めて進藤会長から中野洋昌国交大臣（当時）に手交しました。昨年から、新たな検討地域として山陰ブロックを加え、計5地域において、地域ブロック単位で複数のプロジェクトを検討しています。山陰については、今年度提言を公表する予定です。

また、2026年4月に、札幌市で北海道ブロックシンポジウムを開催しました。

<委員長・WG長>

北海道 石井吉春 北海道大学大学院客員教授	畿北 須野原豊 ウォーターフロント協会会長
四国 大内雅博 高知工科大学教授	沖縄 羽藤英二 東京大学教授
山陰 井上聡史 元政策研究大学院大学教授	

●シンポジウム開催

26年4月：北海道ブロック（札幌市）

北海道経済連合会との共催で開催。当会提言をご紹介し、地元の皆様にディスカッションして頂きました。

北海道開発局長、北海道副知事にもご挨拶頂き、会場：約280名、オンライン：約650名にご参加頂きました。



北海道ブロックシンポジウム

② 国土創生プロジェクト委員会

石田委員長（筑波大学 名誉教授）

石田委員長を中心に、有識者を招いた意見交換を活発に行っています。2026年毎月1回の頻度で委員会を開催し、「地域生活圏」「道路・モビリティ」といった観点から我が国が目指すべき理想的な国土計画を考察していきます。

2月には、昨年委員会メンバーで実施した欧州視察の報告会を行い、イタリア北部の持続可能な地域再生の具体的事例を紹介しました。



石田委員長

●委員会開催（2026年前半）

1月：『都市のサステナブルなデジタルツインに向けて』

東京大学空間情報科学研究センター長 教授/センター長 関本 義秀 様

3月：『パリ市を中心とするまちなか道路の面的空間再編』

京都大学大学院 地球環境学 准教授 山口 敬太 様

4月：『共同行為を生む国土インフラをどう設計・評価するか』

— 行動計測とシミュレーションに基づく実践 —

広島大学大学院 先進理工系科学研究科 教授 力石 真 様

5月：『国土の7割の森林は誰が守る？』

株式会社モリアゲ 代表取締役 長野 麻子 様

6月：『九州における移動ネットワーク構築への取り組み』

西日本鉄道株式会社 自動車事業本部 観光・高速事業部長 阿部 政貴 様

●報告会

2月：イタリア視察報告会

～イタリア北部のテリトリー戦略から
これからの地域生活圏を考える～



③ 広域地域経営委員会

千葉委員長（パシフィックコンサルタンツホールディングス(株)取締役）

地域課題解決のための広域的な地域経営の在り方について、令和3年より福島県双葉地域8町村をモデルとして検討を行っています。

引き続き、広域連携や他分野連携による効率的・効果的なマネジメントについて、情報収集、調査研究活動を推進するとともに、双葉地域における有効な手段について検討を進めました。



千葉委員長

●米子ローカルエナジー視察訪問（2月）

日本版シュタットベルケの事例として中海テレビを中心とした米子地域の取組みを視察し、事業会社（ローカルエナジー株式会社）の設立に至った経緯や設立目的、目的達成のための課題認識について出資者や事業主体にヒアリングしました。



ヒアリングの様子

●広域地域経営委員会開催（4月）

令和8年活動状況

- ・双葉地域において必要となる事業検討
- ・日本版シュタットベルケ WG の活動報告
- ・海外視察に向けた日本版シュタットベルケの実現課題



委員会の様子

④ 水循環委員会

川崎委員長（前田建設工業 顧問）

激化する気候変動とカーボンニュートラルに備え、先進的な降雨予測を活用し、治水対策の強化と利水(水力発電)の増強を共に実現することを目指し、活動しました。このパラダイムシフト推進に向け、新たに生まれる利水のメリットを深掘りするため、発電以外の「利水」（農業用水・水道用水・工業用水）の現状と課題整理をしています。下水道の排水に関する現状と課題も整理し、流域総合水管理のあり方、民間活力の活用および更なる水力発電の促進策の検討を行いました。

また、昨年は「ダム群活用タスクフォース」にて、「気候変動に向けたダム群ポテンシャルの最大活用」の提言を国土交通省 廣瀬技監へ手交いたしました。本年も引き続き提言を行う予定です。



川崎委員長

●委員会開催

1月：講演及び水循環提言内容説明、今後の活動について

講演『3Sの実現に向けたダム再生の方向性について』

京都大学防災研究所 水資源環境研究センター

産学共同研究部門 ダム再生・流砂環境再生技術 研究領域 特定教授 角 哲也 様

水循環委員会提言内容説明：水循環委員会ダム群活用タスクフォース 関 克己タスクフォース長

●幹事会開催

3月：『水循環委員会・幹事会 水力発電の促進』前田建設工業 顧問 川崎委員長

『水循環委員会・幹事会の提言（利水：上下水、広域+WPPP 他）』

(株)日水コン インフラマネジメント本部 技師長 下畑 隆二 様

4月：2回開催：『水力発電の促進について』前田建設工業 顧問 川崎委員長

『新エネルギー財団提言、経済安全保障の視点から見た水力発電の特徴』

東北電力(株) 顧問 小池 剛 様

『ダムによる治水対策と水力発電の強化』

一般社団法人電力土木技術協会 特任技師長 高島 賢二 様

⑤ 防災委員会

河田委員長

(関西大学 社会安全学部社会安全研究センター長・特任教授)

新テーマである「首都直下地震時に想定される長期広域停電対策」についてワークショップを通じて、そのリスクと影響を洗い出し、具体的な対策に向けた検討を行ってきました。政府による2026年下期の「防災庁」の創設実現も見据えつつ、提言に向けた準備を進めていきます。



河田委員長

●委員会開催

26年3月 : 『災害の相転移』を発見できるのか
～首都直下地震は大丈夫か?～』

26年6月 : 『首都直下地震後の復興を進めるために何が
事前に必要か
～丸ごと首都直下地震対策～』 **【延期】**



委員会の様子

●ワークショップ開催(毎月)

1/23、2/18、3/23、4/13、5/18、6/15



ワークショップの様子

⑥ 海洋資源事業化委員会

高島委員長（三菱商事 元副社長）

海洋産業の振興と海洋資源開発の促進をテーマに活動を行っています。
地政学リスクの高まりと我が国の資源・エネルギー安全保障が叫ばれる中、一昨年はリチウムイオン電池の正極材に使用される重要鉱物のコバルト、そのコバルトを含む海洋鉱物資源であるコバルトリッチクラストの早期開発に向け、提言を手交しました。今後も産業界のニーズおよび生産技術・事業化・環境等の各種課題と解決策を提言し、早期の産業化さらには商業化への気運を高めていきます。



高島委員長

●委員会開催

1月：講演及び、海洋資源事業化委員会今後の活動について

海洋資源事業化委員会 高島 正之委員長

基調講演『海洋開発等重点戦略等について』

内閣府 総合海洋政策推進事務局 参事官 渡辺 信彦 様

講演『南鳥島 EEZ6000m からの揚泥試験に向けて』

内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期

「海洋安全保障プラットフォームの構築」プログラムディレクター 石井 正一 様

⑦ 首都圏グローバルハブ空港研究会

山崎委員長（中央大学 経済学部教授）

日本の首都圏には、国際競争力のあるハブ空港が必要であるとの認識のもと、成田国際空港（株）が国に提出した『新しい成田空港』構想について研究を行ってきました。空港の国際競争力強化のためには、機能強化（容量の確保）に留まらず、空港の魅力向上を図ることが不可欠と考えています。新ターミナルの前面土地や将来活用可能な現ターミナル跡地の活用をターゲットとして議論を行っています。



山崎委員長

2月：第39回 研究会開催

- ・成田空港の国際競争力強化に向けた検討（1）

3月：第40回 研究会開催

- ・成田空港の国際競争力強化に向けた検討（2）

5月：第41回 研究会開催

- ・成田空港のこれまでの歩みと現状、及び海外の空港と比較検討

⑧ 水素サプライチェーン整備委員会

青山委員長（グリーンパワーインベストメント 専務執行役員）

昨年4月に前身の「天然ガスインフラ整備・活用委員会前委員会」を改組し、「水素サプライチェーン整備委員会」を立ち上げ、24社が参加しています。風力発電の余剰電力を活用した水素製造、搬送、供給のサプライチェーンにつき検討を行い、今後具体的な提言につなげていきます。



青山委員長

●委員会開催

4月：『クリーン水素製造技術について（再生可能電力を用いた水電解技術を中心に）』

若村 修 様



委員会の様子

⑨ 環境委員会(ブルーカーボン研究会)

桑江委員長 (港湾空港技術研究所 沿岸環境研究領域長)

CO₂ 吸収源として、海洋におけるアマモ等を活用したブルーカーボンの具体的取組みについて勉強を重ねてきました。

藻場を造成することによる CO₂ 吸収以外でのコベネフィットについて、ESG 評価を通じた効果の定量化に取り組みました。昨年7月に全国の15,000人を対象とした藻場についてアンケートを実施し、分析を行ってきました。アンケートにより得られた事実よりブルーカーボンの CO₂ 吸収に留まらない多面的価値を評価・定量化を試みました。



桑江委員長

●定例会議の開催

2月 ブルーカーボンに取組む民間企業5社と九州大学都市研究センターの馬奈木主幹教授と共同で検討を実施。

6月を目途に、馬奈木主幹教授も含めてブルーカーボン活動の現地ヒアリングを実施予定。

⑩ 林業復活・地域創生を推進する国民会議

佐々木会長 (竹中工務店 取締役会長)

鍋山主査 (日本経済研究所 コンサルティングフェロー)

宮下会長に代わり佐々木会長が就任いたしました。

国民会議に向けたWG活動を継続的に開催しています。WGでは、専門家の方々の招聘によるご講演を頂き、ご講演後は、参加者と質疑応答や意見交換など活発な議論を行っております。次回の開催に向け、WGでは新たに有識者を招いて意見交換を行うとともに、先進事例の視察も実施しました。



佐々木会長



鍋山主査

●委員会開催

1月：『SDGs時代における木材価格を考える』

日本森林技術協会 小島 孝文 様

3月：国民会議に向けたコアメンバー会議開催

7月(予定)：『木造オフィスビル視察』

竹中工務店 様



WGの様子

⑪ 森林再生事業化委員会

酒井委員長（東京大学 名誉教授）

「伐って、使って、植える」循環型林業の構築・発展に向け、活動を行っています。年初より各委員が提言に向けた作業を行い、「持続可能な林業の普及拡大」「林業 DX（デジタルツイン）の推進」「スマート林業の実装と災害対策」「木材利用の促進に向けた取組」を軸とする提言を取りまとめ、6月10日に林野庁長官に手交します。



酒井委員長

●委員会開催

2月：『木造住宅生産のオフサイト化』

日本モバイル建築協会代表理事長 長坂 俊成 様

5月：『森林技術者の現状と課題 — 担い手育成を中心に —』

鹿児島大学 名誉教授 枚田 邦宏 様



ご講演の様子



酒井委員長



委員会の様子

⑫ 複合観光事業研究会

美原主査（美原融事務所 代表取締役）

国内での複合観光（IR）導入に向けた課題・手法等につき研究を重ねています。2030年以降の大阪での開業を控え、残された課題を解決すべく検討を行うとともに、来年度に予定される新たな区域認定の公募に向けた情報収集を行っています。カジノ管理委員会、観光庁との意見交換も継続していきます。



美原主査

●委員会開催

26年3月：カジノ管理委員会との意見交換会

⑬ 日本・ミャンマー産業交流検討委員会

高島委員長（三菱商事 元副社長）

ミャンマーでの軍事クーデター以来、日本企業によるビジネス再開は不透明な状況が続く中、現地に詳しい方の話を聞く等、継続して状況把握に努めました。



高島委員長

26年6月：委員会開催

⑭ 関西委員会

寺井委員長（日本製鉄 執行役関西支社長）

大阪・関西万博後の新たなプロジェクトテーマについて、大阪ベイエリアのインフラ整備、開発、活性化や西日本連携等を方向性の一つとしつつ、中長期的な関西の活性化、強化を目指して幅広い視点で議論・検討を積み重ね、テーマの選定に向けて活動していきます。



寺井委員長

⑮ 中部委員会

鍋田委員長（中部電力 取締役副社長執行役員）

中川運河開発を1つの軸としながら定期的に幹事会で議論を重ねてきました。昨年『さらなる中部圏発展に向けた名古屋の魅力向上～名古屋スーパーマグネット構想～』を公表しましたが、その周知を図るとともに、新たな提言に向けて検討を開始しています。

リニア中央新幹線開業を見据え、中心都市名古屋のみならず、都市間連携による中部圏全体の持続的発展に向けて、委員会等を通じ議論を深めています。



鍋田委員長

●中津川視察（3月）

今後さらに中部圏全体の発展に資する提言を策定するため、地域の課題や魅力を現地での確認を進めたく、リニア中央新幹線の関連工事が進んでいる中津川市内を視察するとともに、中川市役所を訪問し、リニア開通後のまちづくりや観光の視点等についてヒアリングしました。



リニア鉄道関連工事現場視察の様子

●委員会（春季）

6月：『インフラの社会的価値からひも解く、中部圏におけるインフラ計画』

【延期】

神戸大学大学院工学研究科 教授 小池 淳司 様

2.オンライン講演会

多彩な講師による幅広いテーマで、定期的を開催しています。
今後も2～3ヶ月に1度の開催を予定しています。

●第26回

2月：『地域未来戦略について』

経済産業省 大臣官房総括審議官

兼 経済産業政策局 首席地方創生担当

政策統括調整官 佐々木 啓介 様



●第27回

3月：『東京湾アクアラインの現状と課題』

東京湾横断道路株式会社 代表取締役社長 八木 茂樹 様



●第28回（予定）

6月：『IRとは？チャンスと課題』

株式会社美原融事務所 代表取締役 美原 融 様

3.大学連携講義

筑波大学と神戸大学において、「グローバル人材の育成」に向けた「社会基礎学」の講義を行いました。第一線で活躍する、多彩な講師にご登壇頂きます。

① 筑波大学

●社会基礎学Ⅰ（2026.6.6～7.4）講師

森 昌文	前内閣総理大臣補佐官
原田 文代	日本政策投資銀行 常務執行役員
三好 忠満	日本製鉄 執行役員
飯島 秀俊	内閣官房内閣審議官
武藤 誠	みずほ銀行 産業調査部長 他

●大学院共通科目（春 2026.6.10～7.21、秋 10.7～12.2）講師

高原 勇	CYBERDYNE 取締役
平井 龍太郎	双日 顧問



講義パンフレット



パネルディスカッション



講義風景

② 神戸大学

●社会基礎学（2026.6.13～7.25）講師

細見 研介	伊藤忠商事 常務執行役員
栄森 剛志	住友生命保険 特別顧問
奥森 清喜	日建設計 取締役常務執行役員
牧村 和彦	計量計画研究所 理事
荒川 朋美	双日 取締役・専務執行役員 他



講義パンフレット

4.その他

① 新年賀詞交換会

令和8年1月9日（金）、ホテルグランドアーク半蔵門にて令和8年 JAPIC 新年賀詞交換会を開催し430名に及ぶご出席を賜りました。

当日は、政界・官界・会員企業他、多くの関係者にご参加を頂きました。

ご来賓： 越智俊之経済産業大臣政務官、佐々木正士郎国土交通省国土政策局長

ご臨席： 齋藤健元経済産業大臣、阿達雅志前総務副大臣、見坂茂範参議院議員



進藤会長 年頭挨拶



会場の様子

② フューチャー21（若手勉強会）

令和8年3月2日（月）、鉄鋼会館にて第24回フューチャー21(若手勉強会)を開催致しました。総勢66名の若手(45歳以下)の皆様にご参加を頂きました。当日は前内閣総理大臣補佐官 森昌文様より、「内閣総理大臣補佐官見て来た記」についてご講演を頂戴し、講演終了後は同会場にて懇親会を行いました。引続き、半年に一度の開催を予定しております。



ご講演の様子



懇親会の様子

③ SNS開設

JAPIC 公式の X (旧ツイッター) に、当会活動内容を随時情報を掲載しています。

是非フォロー下さい。

x.com/japic_jpn?s=11

